

編集後記

むなかた電子博物館 紀要委員会
編集長 宮川 幹平

むなかた電子博物館紀要第 7 号は、創刊以来最大のページ数となった。正直なところ、デジタル紀要ならではの閲覧性を実現するには、編集委員の技術や編集工程の効率に問題も多く、まだまだ精進すべき点が多い。しかし、専門性や特異性のあるテーマについて、より多くの人の目に触れる機会を作るという点については、ある程度の貢献ができたのではないだろうか。今後も、「ムナカタ」を切り口として、様々な活動を縁付け、そして表現する場としての紀要でありたいと考える。

紀要第 7 号は、多くの方の協力なくしては成り立たなかった。紀要編集の立場からも、ここに改めて御礼を申し上げたい。まず、いせきんぐ宗像シンポジウムでの講演者の皆様には、講演記録や貴重な資料の掲載について快諾を頂くとともに、内容確認のご協力を頂いた。また、特集記事編集にあたっては、海の道むなかた館による全面的な協力があった。同館の西谷館長による全体監修をはじめ、同館の白木氏には、講演者の皆様との連絡・調整や、内容確認、資料提供等、多大なるご尽力を頂いた。

続いて、本紀要に貴重な論文をご投稿頂いた花田氏・矢田氏に深く感謝申し上げる。編集にあたっては、編集委員による度々の質問にも関わらず、真摯にお答え頂いた。両氏にとって納得できる紙面編集となっていれば幸いである。

最後に、MIS 九州株式会社 西氏には、本紀要の編集・発行に関わる活動全般において、編集委員による数多くの要求・難題を受け止め、献身的にご尽力頂いた。ここに氏の貢献を明記するとともに、心からの謝意を示したい。